

くるにゃん通信



公式ホームページ QR コード



愛媛県介護支援専門員協会のマスコットキャラクター「くるにゃん」です。出来るだけ多くの介護支援専門員が集い、盛会となることを左手にこめています。

No.7 (2021年6月)

編集・発行 愛媛県介護支援専門員協会

【会長挨拶】

新型コロナウイルス感染症が日本で広がり始めて1年半以上が過ぎました。自身の生活自粛のみならず、業務での閉塞感の中でも会員の皆様方が当協会の運営にご協力くださいますことに心より感謝申し上げます。未だ収束の見えない中、会員の皆さまは介護報酬改定も重なり、日々過大な情報整理を行いながら業務に邁進されておられることと存じます。サービス担当者会議やモニタリングも従来の方法から変化し、情報の取りにくさ、判断や評価のしづらさを感じておられるのではないのでしょうか。対面よりも一層の感性を研ぎ澄まさない、適正な支援にならないことも考えられます。

さて、そのような中、令和3年3月21日に愛媛県介護支援専門員協会第1回事例研究発表会が開催され、6名の主任介護支援専門員が日頃の実践を研究として発表しました。事例研究法を学び、事例を振り返り、事例に向き合い、実践の分析を行う、これだけでも難作業ですが、それをまた発表という形で、会員に還元してくださいました。当協会としましては、愛媛県の実践力強化事業として委託を受け継続していく予定です。ぜひ、事例研究に挑戦していただきたいですし、一人でも多くの方に発表を聞いていただきたいと存じます。共に学んでまいりましょう

令和3年6月20日

愛媛県介護支援専門員協会会長 矢川ひとみ

今回の内容

- 第1回愛媛県介護支援専門員協会 研究発表会 発表者インタビュー
- トピックス
 - 東・中・南予ステップアップ研修
 - 在宅きづきシート（口腔情報・薬剤情報）について
 - 今後の活動内容
 - リモート研修などに関してのお願い
- 愛媛労災特別介護施設（ケアプラザ新居浜）のご案内
- ひと言

第1回 愛媛県介護支援専門員協会 研究発表会



愛媛県主任介護支援専門員実践力強化研修事業を活用し「事例研究を学ぶ」と題して、愛媛大学大学院医学系研究科の柴珠実先生を講師に3日間の講義演習を実施しました。その集大成として、協会の念願であった研究発表会を開催することができました。研究内容の概要と発表された6名の主任介護支援専門員の皆さま方の感想です。

(写真は終了後の記念撮影の様様)

居宅支援事業所シルビウス 得丸 信江様

「介護する夫の力を信じ、支援により介護力を高めることができた事例」

神経難病の妻を夫が介護する事例を通して、病気の進行によって介護量が増大するなかで家族支援に焦点をあて、自宅で看取ることができた要因や関りを振り返った。それは主介護者の夫の意思や主体性を尊重すること、見通しをもった支援を支援者も含めて共有できることなどが浮き彫りになった。

【感想】研修が少なくなっている中、よしっと思い受講しましたが、事例研究と言う、慣れない取り組みに頭を悩ませました。また、リモート、パワポ、演題発表と初めての経験ばかりでしたが、何とかやりきることができました。一緒に取り組んだ5名の方々とは、その後も交流をさせて頂き、仕事への意欲に繋がっています。そして、何より、協会の方々の活動を近くで見て、運営の大変さが良くわかりました。今後も真面目に研修に参加したいと思います。



株式会社悠遊社新居浜事業所 徳原 晶子様

「『先の見えない介護に心折れた』長男に寄り添う～事例とのかかわりを通して」

認知症で暴言や介護抵抗が強く、なかなか支援のきっかけがつかめず長男が落胆していたが、認知症専門医やほかの家族と連携することで、本人の理解や支援の方法が深まった。閉塞した流れを変えることになったキーパーソンを力を引き出したり、タイミングを見逃さない関りを分析した。

【感想】「事例研究を学ぶ」に参加した動機は、「研究」という言葉に興味がわき、「どうまとめるのかな？」と単純に疑問を持ったことがきっかけでした。事例計画書を作成するうちに冷や汗が出てきました。うまくいった事例を選択したつもりでしたが、ケアマネジメント力の不足など事例を通して見えたものがたくさんありました。このような機会を与えて頂き、柴先生はじめ指導して頂いた方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

居宅支援事業所つわぶき荘 黒田 幸恵様

「望む最期を迎えるために、介護支援専門員は何ができるか～妻の気持ちに寄り添いながら～」

最期をどこで迎えるか悩んだ末、本人の望む「在宅での看取り」となった事例を通し、介護支援専門員の役割、介護支援専門員だからこそできることを考えた。本人、家族に寄り添い、心の揺れや葛藤を傾聴する力やそれを医療職や関係する人に適切に伝える力が必要ながことが実感された。

【感想】今回、とても貴重な体験をさせて頂きました。自分にできるのか、不安でしたが、皆さんのお陰で発表まで終える事ができ、感謝しています。この研究を行い良かった事は、看取りの支援に自信の持てなかった自分がケアマネの役割、存在意義を捉えなおす事ができ、今の自分に少しだけ自信が持てる様になった事です。自分の支援を振り返り、客観的に評価していく事はとても大事な事だと思いました。皆さんも是非チャレンジしてみて下さい。

八幡浜市地域包括支援センター 河野 玲子様

「家族会議のすすめ～『迷惑をかけたくない』という本人の思いを共有するために～」

人生の最終段階における医療・ケアについて話し合う「人生会議」のように「家族会議」を位置付けて開催した。家族会議によって本当の気持ちに寄り添ったり、対話のプロセスを踏むことで関係性が深まり、本人らしさを共通理解として持てる効果を示唆した。

【感想】「チャレンジしよう」という意気込みと「事例研究」の言葉に魅せられて参加しましたが、研究課題を絞り込むための先行研究との比較や文献検索等、初めて取り組むことばかりで資料の山に囲まれ右往左往の毎日でした。振り返ってみると、終了した事例を掘り下げて丁寧にたどっていく作業自体が考察につながることや事例の中に隠れている大切なことを言語化していく過程は新たな課題を明確化していく貴重な経験になったと思います。ご指導いただいた柴先生をはじめ、事例研究の場を提供してくださった役員の皆様に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

居宅介護支援事業所やわらぎ 玉江 さおり様

「65歳を迎えた精神障害者は地域で安心して暮らすことができるか？～本人の望む生活を制度の狭間の葛藤～」

高齢精神障害者が障害者自立支援法から介護保険に移行する場合、利用負担が経済的に大きいこと、自律に障害をきたしている人の見守りを介護の手間として位置付ける難しさ、相談支援専門員との連携や障害種別を問わずサービスの提供できる事業所が増えることの必要性を問題提起した。

12月13日にスタートした事例研究。「検討と研究の違いから学びたい」と、軽い気持ちで挑戦したのですが、直後には厳しい現実と直面することになりました。しかし、自身の仕事に対する姿勢や傾向等自分自身と向き合う機会となり、忘れられない貴重な体験に感謝し、研究を締めくくることが出来ました。「同じように一人で悩んでいる介護支援専門員の役に立てれば」と思います。柴先生、介護支援専門員協会の皆さま、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

済生会介護支援センター姫原 坂本 由美様

「次に活かせる平常時の災害時アプローチ 認知症独居高齢者の災害対応から学ぶ」

土砂災害で家屋を失った高齢者の支援を振り返りながら、平常時の災害アプローチにおける課題をまとめた。災害を予測しシミュレーションしたり、その人に必要な情報の収集の重要性をまとめた。

今回の事例研究では、ひとつの事例を研究対象として選ぶことから悩み、記録を読み返し、不足する情報が多いため、再度聞き取り情報を補った。記録を整理して残すことは、対象者をしっかりと観察する事から始まるのだと思った。現在業務の中で変わったことは、課題に沿った記録を行い、文献検索をし始めた事である。1事例のケースとして完結するのではなく、今後活かせるケースとしての視点を持ち関わり方を大切にしていきたい。研究発表まで支えて下さった皆様に深く感謝を申し上げます

宮内 清子氏講評

まずは第1回の研究発表会にチャレンジされた6名に敬意を表したい。短い期間でまとめて公表するのは大変だったと思います。私たちの直面している、重要な課題を各々がしっかりと取り上げられていました。現在色々な方面で社会が変化しているが、変化に「ついていく」だけでなくパイオニアと
なって欲しいと思います。自分達の情報・記録は宝物となります。その宝をどうか、
これから研究に取り組む方はチャレンジして欲しい。今後に向けて主任ケアマネやケアマネ、
協会がタッグを組んで、第1回の次は第2回・第3回と是非花開くようにお互いがんばりましょう。



ステップアップ研修

ステップアップ研修 in 南予



今年度ステップアップ研修 in 南予は「金銭管理が困難な方への制度活用」と題し宇和島市社協松井様、八幡浜市社協前田様のお二人は会場に来ていただき、参加者はリモートでの参加と変則的な方法でしたが、細かな機材トラブルはあったものの何とか開催できました。

アンケートなどのご意見を参考に、改善をはかっていきたいと思います。

ステップアップ研修 in 東予



ステップアップ研修 in 東予は「AI を利用したケアプラン作成の体験と活用方法を学ぶ」と題し、株式会社 CDI より青木様 渋木様を講師に、研修を開催しております。講師お二人は東京から、会場にはスタッフだけが集まり、ZOOM のみでの完全リモート研修となりました。残念ながら、「SOIN」(AI ソフト) の操作体験は出来ませんでした。が、「AI ケアプラン」の一端に触れることが出来た研修になったのではないのでしょうか。

ステップアップ研修 in 中予



ステップアップ研修 in 中予では「歯科医師・薬剤師との連携」と題し薬剤師会からは宮内様・鶴川様、歯科医師会からは久保様を講師にお願いし研修を行いました。歯科医師会、薬剤師会の先生方のご協力を得て開発した「在宅気づきシート」は 当協会ホームページからダウンロード出来ます。

●在宅気づきシートについて

中予研修参加者の皆さんはご存じですが、在宅気づきシート（口腔情報、薬剤情報）を作成いたしました。

平成 30 年度の介護報酬改定において、「介護を担当するサービス事業所から伝達された口腔に関する問題や服薬情報、介護支援専門員自身のモニタリングにおいて把握した利用者の状態等について、主治の医師、歯科医師、薬剤師に情報伝達を行うこと」が義務付けられました。その情報伝達を有効で効率的に行うために「在宅気づきシート」作成へのご協力を愛媛県歯科医師会、愛媛県薬剤師会にお願いし、当協会とそれぞれの師会と話し合いを重ね、この度、2 種のシートを完成させることができました。県歯科医師会、県薬剤師会の皆様方に感謝申し上げますと共に、広く会員の皆様方に活用いただき、有効なチームアプローチの実践をお願いする次第です。

在宅気づきシートは下記アドレスからどうぞ

口腔

<https://drive.google.com/file/d/133oKT-hEerM-lph94qQm5Zv2POGKvsUo/view?usp=sharing>

薬剤

https://drive.google.com/file/d/1fdMIOiJqpHN-ub35mAZCzBQj_p5jtu-P/view?usp=sharing

●今年度の事業予定

ステップアップ研修

東予 「感染症の理解とケアマネジメントへの応用」

令和3年7月25日（日）講師：愛媛労災病院 感染管理認定看護師 菅原 麻貴氏

南予 新しい居宅サービス計画書の標準様式の活用

「歯科医師・薬剤師との連携」～「在宅気づきシート」の活用

令和3年10月頃 予定

中予 「制度理解について」（仮）

令和3年12月頃 予定

主任ケアマネジャースキルアップ研修

「事例研究を学ぶ」

講師：愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻 講師 柴 珠実氏

令和3年8月21日（土）令和3年10月31日（日）令和4年1月22日（土）

全体研修

四国ブロック支部大会

「コロナ禍でのケアマネジメント（仮）」令和3年9月26日（日）開催予定

事例研究発表会

令和4年3月12日（土）開催予定



●日本介護支援専門員協会 四国ブロック大会開催

今年度は日本介護支援専門員協会四国ブロック大会が愛媛県にて行われます。

リモート形式での開催を予定し準備を進めております。

9月頃に開催を予定しております。日程やテーマなど詳細が決まり次第、告知をさせていただきますので、ご参加よろしくお願ひします。

研修の受講方法についてはその時々の感染状況や各種事情により通常の研修申込みや研修方法と違う場合がございます。

後日お届けする案内を良く読んでお申し込み下さい。



●リモート研修などに関してお願ひ。

感染症予防の観点から研修などの、会場参加は少人数におさえ、リモートでの参加（ZOOM など）が多くなると思われます。協会としても接続マニュアルを作成、事前接続テストを行うなど出来るだけ対応しておりますが、個々の接続環境やパソコンの状況までは残念ですがサポートが出来ません。不慣れな方は出来るだけ**事前接続テストに参加していただくことをお願ひします**。また修了証の発行に対してキーワードなどを出し受講を確認するなどを行っています。

確認漏れが無いよう研修当日の説明をよくお聞きになって手順に添って進めてください。公平性の観点から**研修終了後キーワードの再確認や確認出来ていない状態での修了証の発行はいたしかねますのでご注意下さい。**

研修方法は今現在もより良い方法を模索しながら行っております。

各研修で申込み方法や進行方法などが違う場合がございますので、案内を良く確認していただきご対応をお願いいたします。

また協会への各種問い合わせなどについては
メールでの問い合わせをお願いします。事務局の電話対応も残念ながら専属の事務員がいないため、担当理事が通常勤務時間内に行っていますので、ご配慮のほどをお願いいたします。

よろしくお願いします



●ご案内

愛媛労災特別介護施設（ケアプラザ新居浜）のご案内

ケアプラザ新居浜は、労災事故により重度な障害をこうむられた方々に、安心していきいきとした生活を営んでいただくため、厚生労働省が全国8か所に設置した介護施設で、四国では新居浜市に設置されているものです。

ケアプラザ新居浜は、平成13年以降20年にわたり、一般の高齢者介護施設などでは対応が難しいとされている、せき髄損傷、頸髄損傷、頭部外傷等の傷病・障害の特性に応じた適切で専門的な介護サービスを24時間体制で提供することについて、豊富な経験と実績を有しています。

ケアプラザに入居できるのは労災年金受給者で、障害等級又は傷病等級が1級から3級に該当し、居宅において介護が困難と認められる方です。なお、60歳以上で障害等級4級程度に該当する方等で、居宅での介護が困難な場合は、特例的に入居が認められる場合があります。

ケアプラザ新居浜は、定員90人（個室70室、多床室4人×5室）で看護師と介護士が交代制により入居者への日常生活の介護サービスを提供しています。また、リハビリ専門職によるリハビリテーションも行っています。

入居に要する費用は、施設利用料（いわゆるホテルコスト）と介護費の合算額となりますが、介護費については、同額の介護（補償）給付が厚生労働省から後日支給されるため、入居者の方の実質的な負担はありません。現在、入居者を募集しておりますので、労災年金を受給されている方から施設入所の相談がありました際には、選択肢の一つとしてご紹介いただければ幸いです。



名 称：愛媛労災特別介護施設(ケアプラザ新居浜)
所 在 地：愛媛県新居浜市阿島1丁目3番12号
問合せ先：TEL(0897)67-1122〔担当〕総務課

●ひと言

入浴介助加算Ⅱ ⇒利用者が居宅において入浴できることを目指す

・医師、PT、OT、介護福祉士、ケアマネ等（福祉用具専門相談員、機能訓練指導員、地域包括支援センター職員、福祉・住環境コーディネーター2級以上などが利用者宅を訪問し、浴室における利用者の動作や浴室の環境を評価する。

- ・それを踏まえた個別計画を多職種連携のもとで策定する。計画にそった個別の入浴介助を実践。
- ・一連の取組みを通じて利用者の自宅での自立を目指している。

Q&A より（令和3年4月26日付）

自宅に入浴設備がない利用者の場合、要件を満たせば事業所などで入浴の自立を図る目的として算定できる。「自宅で入浴できないからデイを利用しているのに、なぜ自宅で入浴するための計画を立てなければならないのか」という声も根強い。

説明のヒント：自宅での入浴の達成は必須条件ではない。シャワー浴も可能。非常時にそなえることも必要。

例）災害時に避難先で入浴できる、コロナでデイが休止中に自宅でシャワー浴、旅行先で入浴など

発行元 愛媛県介護支援専門員協会

〒790-8585

愛媛県松山市三番町 4 丁目 5-3

愛媛県医師会会館内

愛媛県介護支援専門員協会事務局

TEL:089-968-1572 FAX:089-968-1573

Mail:ecma20150418@gmail.com

編集後記：新型コロナウイルスのワクチン接種も少しずつ進み、愛媛県の感染状況も落ち着きつつ有りますが、依然として研修については以前のように 100 名が同じ会場で…とは行かない状況が続いています。リモート研修がより快適に出来る様ご協力よろしくお願いします（N）